

河東碧梧桐 （俳句評釋） 俳人。明治六年（一月）二十六日愛媛縣生れ、昭和十一年（一月）一日歿（一八七三—一九三七）。本名兼五郎。別號もきどり、双松庵、とろく坊、如月、桐、桐仙、梧桐仙、梅溪、越菓子、游魚庵、田舎男、碧、碧桐子、碧格、碧梧桐生、碧生、兼、兼鼓、虚桐庵、閑鼓先生、青桐、青桐生等。明治二十七年第一高等學校中退。中退時代から正岡子規の兄事。子規歿後新聞「日本」俳句欄を繼承。次で新傾向俳句運動を興す。大正四年中塚一碧樓等と雑誌「海江」を創刊し、無季自由律俳句を實踐。十一年「碧」を、十四年「二昧」を創刊。昭和八年俳壇引退を表明。高濱虚子と共に子規門の雙燈。

著書「俳句評釋」（明治二十二年五月十日二日新聲社）、「續俳句評釋」（明治二十二年十一月五日新聲社）、「寒玉集・第一篇」（子規合著）

・高濱清編、明治二十二年十一月十日「俳句」として發行所）、「春夏秋冬」

（虚子共編、夏之部、明治二十五年五月十五日俳書堂・阪文淵堂、秋之部、九月七日俳書堂「俳諧叢書」）、「俳句初歩」（明治二十五年十一月十日新聲社「俳句新叢」）、「俳句初歩」（明治二十五年十一月十日新聲社「俳句新叢」）、「俳句初歩」（明治二十六年二月十日俳書堂）、「續俳句初歩」（浪化句集）

（編、明治二十六年七月十日新聲社「俳句新叢」）、「寫生文集」（合著・四方大編、明治二十六年九月十八日俳書堂）、「俳句評釋」（明治二十六年十一月五日人文社）、「俳諧漫話」（明治二十六年十一月十日新聲社）、「蚊帳釣草」（明治二十九年八月十五日俳書堂、秋山書店）、「續春夏秋冬」（編、春之部、明治四十年五月十五日俳書堂、夏之部、六月）



十五日俳書堂、秋山書店「俳諧叢書」）、「俳句評釋」（再版、明治四十

年七月(二十一年)金尾文淵堂)、「日本俳句鈔」(選、第一集下巻、明

治四十二年)五月六日自刊、政教社出

版部、第一集、大正二年二月十七日

政教社)、「二千里」(明治四十二年十

年十一月一日)金尾文淵堂、「大杉本聚

江堂)、「現代俳句」二家集「(内藤松瀬

鳴雪青々合著・高木米神編、明治四十四年五月七日大阪・文徳堂本店)、

「續二千里・上巻」(大正二年一月十八日)金尾文淵堂)、「一から四

まで」(大正四年一月十五日)月社「現代俳句文藝思潮叢書」、「新

傾向句集」(大正四年一月二十二日)月社)、「新傾向句の研究」(大

正四年六月五日)「俳書堂」山書店)、「子規句集」(高濱虚子共編、六

版縮刷、大正四年六月十七日)山書店)、「碧梧桐句集」(大須賀乙

字選、大正五年一月五日)俳書堂)、「碧梧桐は斯ういふ」(大正六年

五月二十日)大鏡閣)、「日本アルプス縦断記」(長谷川如定「直藏」合著、

大正六年七月二十一日)大鏡閣)、「謠と能のわげぐち」(合著・能樂

放談會「坂元雪馬」神田石秋編、大正七年四月二日)磯部甲陽堂)、「新日本見物

臺灣樺太朝鮮「滿洲善書傳之卷」(合著・金尾種次郎編、大正七年六月十五日)金尾文

淵堂)、「句集」八年間(大正十一年一月一日)文同社)、「二重生活」

(大正十二年十月六日)改造社「改造社隨筆叢書」、「反古のすそ」

(内題「反古金」)本名、編、大正十四年二月八日)葦村研究會)、「碧

格桐「作選俳諧と藝術」(大正十四年四月十日)碧川發行所、磐城屋書店發

賣)、「畫入葦村」(大正十五年八月五日)中央美術社)、「文藝講座」

・第一巻(合著・日本放送協會關東支部編、昭和二年四月二十二日)博



- 本ラヂオ協會「ラヂオ講演」）、『日本八景』（内題「日本八景紀行」文）
- 合著・大阪毎日新聞社編、昭和二年八月一日大阪・大阪毎日新聞社）
- 『蕪村新十一部集』（編、昭和四年一月二十日春秋社）、『新興俳句への道』（昭和四年十一月十五日春秋社）、『日本文學講座・第十卷』
- 一江戸時代下編』（合著、昭和六年七月五日新潮社）、『山と水と人』
- と』（昭和八年十一月十五日日本八論社）、『子規と語る』（昭和九年二月二十日汎文社）、『俳句作法講座・第一卷』（合著・山本三生編、昭和十年九月二十日改造社）、『芭蕉研究 蕪村研究』（大田水徳合著、昭和十一年二月二十八日新潮社「新潮文庫」）、『子規言行録』（編著、昭和十一年十一月一日政教社）、『二千里』（第一卷、第一）
- 卷・昭和十一年二月十日春陽堂書店「春陽堂文庫」）、『山水隨想』（昭和十一年七月二十五日日本八論社）、『河東碧梧桐篇』（正井程一編、昭和十二年八月二十五日第一書房「俳句文學全集」）、『碧梧桐句集』（喜谷八花編・瀧井孝作解説、昭和十二年十一月一日櫻井書店）、『碧梧桐句集』（喜谷八花編、昭和二十九年十一月十日角川書店「角川文庫」）等。